



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 天界 1920, 1(3)

ISSUE DATE:

1920-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159539>

RIGHT:

一月號

界

天

第一卷

第三號

内容

(繪口) 最近の新城博士

字力宙の引 三三

理學博士 新城 新藏

反射望遠鏡の話 三五

(附 世界的大望遠鏡一覽)

理學士 百濟 教猷

獅子座流星群の觀測報告 四三

古川 龍城

余の天文好きの徑路について 四二

水野 千里

雜一 大正十年度の星界 四五
報一 來年の彗星 四五

▲▲質疑三件▼▼▼ 四六

英文欄 On Fixed Stars 四七

同好會報 四八

特別附錄 天文語彙 (其三)

一月の天象

太陽 二十日午後十一時 磨羯宮から寶瓶宮に入る

月 一日午後一時半 下半月(乙女座)

九日午後二時半 新月

十七日午後三時半 上半月(双魚座)

廿四日午前八時 滿月(蟹座)

卅一日午前五時 下半月(天秤座)

水星 月初射手座太陽の西にあるが十七日上合、それから輝背天山羊座にく。觀望には全然不適。

金星 月初水瓶座を西行、廿三日魚座に入る太陽に近、光強

大九日火星 接距離廿五分。同日又天王星に接距離四十分

火星 金星と并列又天王星と接近——九日夜同時に望遠鏡内に入る

木星 獅子座シ星南隣に停滯 光輝燦然。附近を照す

土星 乙女座ベ星と極めて近い。木星と同じく停滯不動。輪はまだ細い

天王星 水瓶座シ星北隣を徐行、西から火星と金星に追ひ越される。望遠鏡で觀望好適

海王星 蟹座テ星の西五度を徐ろに逆行。一吋以上の望遠鏡で見ゆる。

西天の偉觀!

會 告

○一月例会　來る一月二十九日(土曜)午後三時、京都帝國大學理學部物理學教室にて開會、左の講演あり。(靴又は草履)

未 定

理學博士　新城新藏氏

○大阪講習會　我が同好會主催の第二回講習會を開く。

時日　大正十年

學科及講師

新時代の天文學

理學士　山本一清氏

會場

會費

申込

Contents of THE HEAVENS No. 2.——edited by I. Yamamoto.

Prof. (*Frontispiece*)——Prof. S. Shinjo, Universal Gravitation
——K. Kudara, Story of Reflecting Telescopes——R.
Furukawa, Observations of Leonid Meteors——Cl. Mizuno,
How I became interested in Astronomy——Heavens in 1921
——Comets in 1921——Queries——Our English Page: On
Fixed Stars——Notes of S. A. F.
APPENDIX: T. Ebi, Astronomical Lexicon (3)

Published by the Society of Astronomical Friends,
Kyoto University Observatory, Japan.

天文同好會規則 (第三版)

- 第一條 此ノ會ヲ天文同好會ト云フ
第二條 此ノ會ハ天文學ノ了解ヲ進メ兼テ同好者相互ノ親睦ヲ増スノガ目的デアル
第三條 事務所ヲ京都市吉田町京都大學天文臺内ニ置ク。又會員密集ノ地ニハ支部ヲ置ク事ガアル
第四條 此ノ會ハ右ノ目的ヲ達スル爲メ次ノ事業ヲ行フ
一、講演 (例会毎月一回 大會年一回 其他臨時會)
二、講習 (各地ヲ臨時ニ開ク)
三、雜誌圖書ノ出版 (雜誌ハ月一回會員ニハ無代配布、圖書ハ隨時)
四、實地觀測 (第一部、啓發的、甲觀望、乙見學、第二部、研究的、甲流星、乙變光星、丙彗星)
第五條 此ノ會ノ目的ニ賛同スル者ハ誰デモ會員ニナレル但シ毎月金貳拾錢ノ割テ納付スル必要ガアル
申込ノ際ハ住所職業生年ヲ記入セラレタイ
第六條 特ニ一時金五拾圓以上ヲ寄附スル者ヲ名譽會員トスル
第七條 此ノ會ノ幹部ハ次ノ通り
幹事 二名 會計 一名
此ノ幹部ハ總會テ選舉セラレル者テ任期ハ一個年
第八條 幹部ハ會員ノ中カラ次ノ係リヲ指名囑託スル
講演係 一名 編輯係 三名 觀測係 一名 寫真係 一名

幹部 (第一期)

幹事	山本 一清
會計	古川 龍城
講演係	滑川 忠夫

天界 第一號 (創刊號) 目次

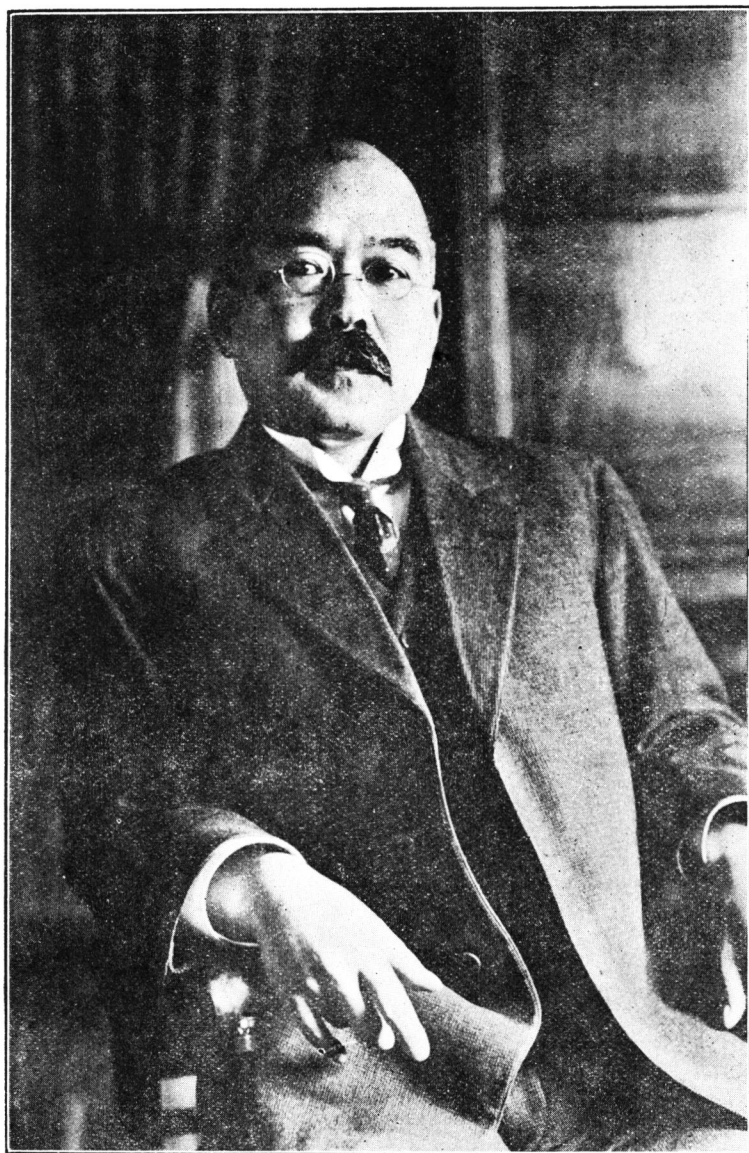
十時反射鏡 (口繪)——天文同好會、趣意書——
星の光度附一等星表 (山本理學士)——天文書
總覽 (古川助手)——所感 (冷泉伯爵)——天文と
旅行 (水野千里氏)——テンベル百濟彗星——ロッ
キヤ氏逝ク——十時反射望遠鏡到着——質疑三
件——天象の注意事項——附錄 天文語彙 (あの部)

天界 第二號 (十二月號) 目次

小遊星發見寫真 (口繪)——小遊星の發見 (山本理學士)——星界に趣味した動機 (津田雅之氏)——邦天文書總覽 (古川助手)——白鳥座
第三新星——オリオン星雲の距離——學術研究會の天文部——新刊紹介 (一戸博士著天文學下卷)——
質疑二件——一戸博士逝ク——Discovery of Nova Cygni (Denning)——同好會報——附錄 天文語彙 (あの部續き)

天文エハガキ (近刊) 同好會發行

- 第一集 天文器械の部 (七吋望遠鏡、十吋望遠鏡、子午儀
と天文時計、太陽寫真儀、天文經緯儀)
第二集 京都天文臺 (新城博士、山本助教教授と新星、百濟理
學士と彗星、佐々木氏と彗星、スタフ)
第三集 天體寫眞の部 (近江隕石、太陽、鳥島皆既日食、
星のスペクトル、新星と其のスペクトル)



士博城新の近最

編輯室にて

會員諸方の等しく目出たい新年を迎へられんことを祈ります。吾が會も、雜誌もごうやら落ち付いた氣持で生長して行きます。會として始めてのお正月に前途多望を思つて喜びは一層大きいです。▲今號には新城博士の玉稿をいたしましたので、更に此の好機に博士最近の御影を頂いて巻頭を飾りました。博士は宇宙進化論のカーソリチャーとして、先年御出版の著述により會員諸方にもよく御存じのことと思ひます。寫眞は鹽田氏得意の手腕によつて撮られました。▲更に又百濟理學士の反射望遠鏡の話は此の號の總ての讀者を喜ばせる快文字だと思ひます。此文は去る九月に既に出來上つてゐたのですが、編輯の都合で今日まで延びたことは同理學士に御わび申上げます。此の文を御讀みの時は必ず第一號の口繪の十時を見て下さい。▲吾が會が成立の最初から實地觀測を一事業として高調してゐるのは皆様御存じの通り、此の事業のプログラムは追々發表したいと思ひますが、先づ此の號に模範觀測として古川氏の流星の報告を載せました。多くの會員が此の種の觀測を實行せらるゝ事を望みます。▲中村氏のすばるのスケッチを載せたのも此の意味です。

事務室より

別頁の如く支部が六つ設置されました。愉快なことで熱心な支部幹事諸氏の御働きを祈ります。支部の經營については、こゝに一つ問題があります。支部の活動方針、支部と本部との關係、支部の會計問題等、之れ等について會員諸君の好い御考へを御教へ下さい。▼會には毎日新入會者があります。

大正九年十二月二十四日印刷
大正九年十二月二十五日發行

(定價金貳拾五錢)

編輯兼
發行者

京都帝國大學天文臺内
天文同好會

右代表者

振替貯金大阪五六七六五番

(號三第界天)

印刷者

京都市夷川川端東入下ル

佐藤 靜

印刷所

京都市夷川川端東入下ル

弘文堂印刷所

